

～生後2か月以上のお子様がいる保護者の方へ～



B型肝炎ワクチン予防接種のお知らせ

○対象者 : 1歳のお誕生日前日まで

○接種回数 : 3回

○接種費用 : 全額公費負担 (無料)

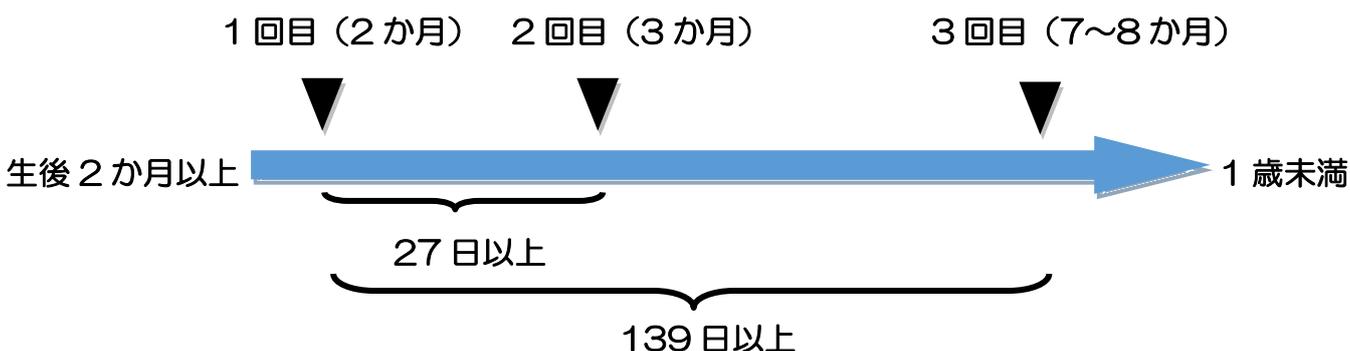
○接種場所 : 市内指定医療機関、
本島内の地区医師会会員医療機関、

(※接種前に予約を行い、

必ず親子(母子)健康手帳を持参して下さい。)



◆B型肝炎ワクチンの標準的な接種スケジュール



※1回目から2回目は27日以上、1回目から3回目は139日以上の間隔を置いて接種してください。

※母子感染予防のためにB型肝炎ワクチンの接種を行った場合、定期接種の対象外となりますが健康保険の適用で接種できます。



B型肝炎ワクチンで防げる病気って、どんな病気？



肝臓の主な働きとしては①栄養分の生成・貯蔵・代謝 ②血液中のホルモン・毒物・薬物の代謝、解毒 ③出血を止めるためのたんぱくの合成 ④胆汁の産生と胆汁酸の合成 ⑤ウイルスや細菌感染の防御 などがあります。肝臓は一般的に20%程度しか使われていないため、慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状がなく「沈黙の臓器」と呼ばれています。

- ・B型肝炎ウイルスは血液や体液等を介して感染し、肝細胞へ侵入して増殖します。
- ・症状としては全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐、褐色尿、黄疸などです。
- ・乳幼児期に感染すると免疫力が弱いいため、症状がでないまま、感染が継続（キャリア化）することがほとんどです。思春期以降、免疫が発達するとウイルスとウイルス感染している肝細胞を攻撃し、肝炎の症状が出ます。その後は、80-90%の人は肝機能が安定した状態になりますが、10-20%の人は慢性肝炎へと移行し、肝硬変や肝臓がんになるリスクにつながります。ワクチン接種により、一過性の感染やキャリア化を予防し、周囲への感染を防ぐ事ができます。



B型肝炎ワクチンについて

日本では、1986年から、B型肝炎母子感染防止事業として、B型肝炎の抗体検査で陽性だった妊婦さんから生まれたお子さんのみを対象にワクチン接種を実施していましたが、平成28年10月から定期接種として追加されています。定期接種としては新しいワクチンですが、世界180か国以上で接種されている、安全性の高いワクチンです。

ワクチンを3回接種した後の感染防御効果は20年以上続くと考えられています。

ワクチンの副反応について

主な副反応は倦怠感、頭痛、局所の腫脹・発赤、疼痛などです。また、極めてまれではありますが重大な副反応として、アナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病等が現れることがあります。現在日本でB型肝炎ワクチンとして「ビームゲン」と「ヘプタバックス-Ⅱ」の2製品が供給されています。接種後に気になる症状のある時は、早めにかかりつけの医師の診察を受けましょう。

お問い合わせ先

浦添市保健相談センター（健康づくり課 予防係）

TEL 875-2100